

ちいきのわ

発行 豊中市 政策企画部 コミュニティ政策室

Pick up NEWS

新千里東町で 地域フィールドワーク を始めています



市では現在、コミュニティ基本方針に基づき、地域自治システム(※)の調査検討を進めています。
より使いやすく実現可能な仕組みにするために、9月から新千里東町をモデル地区として、このシステムの具体的な内容について意見交換をしています。

新

千

里

東

町

●第1回

課題解決のための地域団体同士の協力・連携の方法(地域自治組織)について意見交換しました。



9/19開催、参加者数30人

一部の関心のある人だけではなく、地域に無関心な人をどう巻き込むのかをよく考えないと、活動が広まらないのでは・・・

地域で意思決定し、課題を解決していくには、新しい仕組みや市の支援が必要

地域自治組織ができれば、NPOなどの団体も参加できる機会があるかも

●第2回

地域と行政の役割分担や、行政に地域担当窓口を設けることについて意見交換しました。

地域自治組織のような地域を代表する団体があれば、一部の人の意見が先走ったり、各団体がバラバラに市に要望しなくてもよくなるのでは

地域担当は地域の力ではできないことを頼んだ時に動いてほしい

※地域自治システムって?

地域の自治を推進するために、地域のさまざまな団体が連携して課題を解決していく仕組みと、それに対応する行政の組織体制や支援策のことです。
それぞれの地域特性に合った、豊中スタイルの仕組みづくりをめざしています。

地域の課題は地域全体で取り組むべきであり、さらに市のサポートがあればはじめて解決していきけるものだ



11/14開催、参加者数28人



地域の底力カラ!

今回のテーマ

情報発信・共有・交流

マップにすればよく分かる 地域の安全安心情報

泉丘公民分館ボランティアサークル

泉丘小学校区は近年、急速に開発が進み、平成12年(2000年)に約7,700人だった人口が、平成17年には1万人を突破。次々とマンションが建設され、周辺の状況が変化するにしたがって、住民から、「道路が狭い」「危険箇所が多い」などの声が聞こえてくるようになりました。「車椅子で行ける歯医者さんはありませんか?」という問合せを受けたのをきっかけに、車椅子で安心して通院できる医療機関とその道路のバリアフリー情報を全戸配布することを発案しました。それが「ゆうゆうマップ」です。

地域の中学生や小学生、保護者も調査に加わり、マップが完成。マップにしてみると、危険な箇所や障壁が多いことに気づきます。医療機関への調査は、サークルのメンバーが直接協力をお願いに行きました。そうした努力が実り、「バリアフリーになるよう改善した」とのうれしい報告も届いています。

現在、マップは、お店情報や避難場所なども加えて、バージョンアップしています。



マップづくりに協力してくれた中学生や小学生が、地域に愛着を持ち、後々、地域の活動に参加してくれることを望んでいます。(左から、森島さん、筒竹さん、吉田さん)



庄内の魅力発信「ええやん!しょうない!」

しょうないREK

「庄内地域をもっと元気に、住み続けたいと思えるまちにしたい。」そんな思いを胸に、市民と市が協働し、平成17年(2005年)に「しょうないモデル事業実行委員会(しょうないREK)」を立ち上げました。庄内図書館を拠点とした本のリサイクル販売活動を中心に、その収益を、さまざまな活動を通じて地元還元しています。そのひとつが、情報誌『しょうない瓦版』です。庄内地域の魅力をもっと知ってもらいたいという思いで発行しています。

しょうないREKの活動だけでなく、地域の地図を掲載し、郷土史、地域の色々な活動やイベントなど、庄内地域の情報を積極的に紹介。子ども達や外国から来た人にも読んでもらえるよう、漢字にはできるだけルビをふり、多言語を使った記事も掲載しています。

こうした編集方針のおかげか、最近では地域の情報が集まりやすくなり、「地域の瓦版」として親しまれています。



瓦版は、地域に密着しながら試行錯誤してきたREKの成長の記録でもあります。これからも、今まで気づかなかった地域の魅力を再発見する機会を作っていきたいと思います。(増森さん)

開かれた交流の場から生まれる活動のアイデア

千里市民フォーラム

千里ニュータウンは、豊中市と吹田市にまたがる地域です。この地域のまちづくりに取り組む人たちが、行政区域を越えて協力・連携するための情報ネットワークの核として、平成14年(2002年)に千里市民フォーラムが設立されました。地域住民から活動に興味がある学生や研究者まで、さまざまな人が参加しています。主な活動は、誰でも自由に参加できる交流の場「土曜サロン」の開催です。参加者から活動のアイデアの提案があれば、その協力者を募り、実現していく仕組みを作っています。たとえば、千里の竹林を甦らせようという提案から、間伐や清掃、竹炭作りなどを行う「千里竹の会」が生まれました。



また、活動が一部の人に偏らないよう会長の任期を3年と決めたり、若い世代の人たちにも積極的に運営に加わってもらうなどの工夫もしています。このように、広く開かれた場を設け、人と人、人と活動をつなぐ肩ひじのはらない交流の場をつくることで、市民の思いや発想を活かしたまちづくりを進めています。



千里市民フォーラムでの経験を佐竹台地区の自治会活動に活かし、「不満でなく提案型で話し合う」「毎年一つは新たなことに挑戦する」という方針で活動を実践しています。(谷川さん)

担い手不足を解決するためのインターネット活用術

豊中市社会福祉協議会

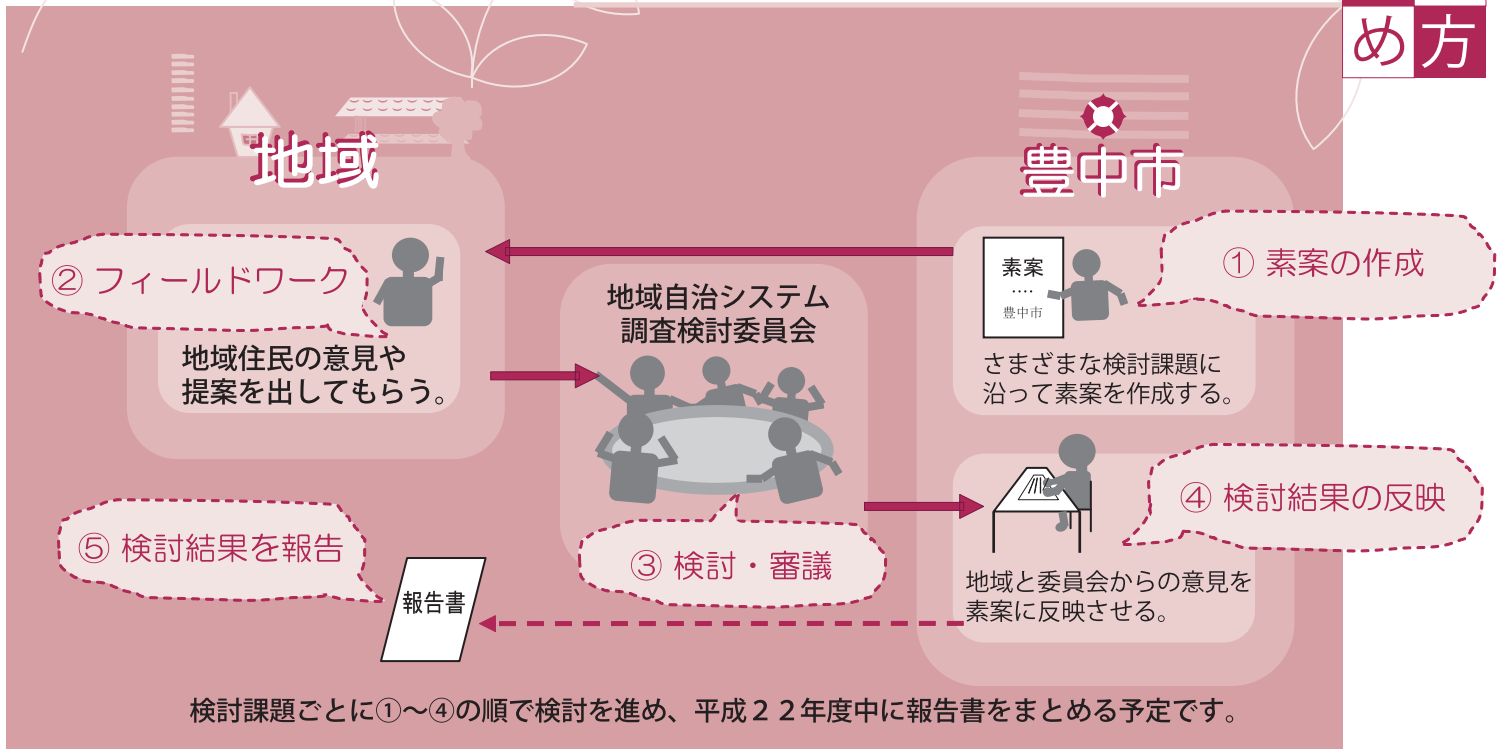
身近な地域で福祉活動を進めていくため、おおむね小学校区単位で校区福祉委員会が結成されています。平成19年(2007年)、に豊中市社会福祉協議会(市社協)が、各校区の福祉委員会を対象に住民の主体的な活動を進めるうえで困っている事は何かをアンケート調査したところ、活動の担い手不足や担い手の高齢化が一番の悩みであることがわかりました。そこで、各校区の“アラフォー世代”に解決方法を話し合ってもらった「場」を設けました。その成果を「校区福祉委員会の次世代養成についての提言」にまとめ、ホームページ、メーリングリストで校区外からも広くボランティアを募ることを提案。今年度から各校区福祉委員会の活動状況をみなさんに知ってもらうためのホームページづくりを始めています。



各校区の「福祉なんでも相談窓口」に設置したパソコンを活用して、地域のボランティアが情報更新しています。この校区福祉委員会のホームページ作りをきっかけに若い世代の皆さんにも地域活動に関心を持ってもらえればと考えています。(佐藤さん)



地域自治システム調査検討の進め方



検討課題ごとに①～④の順で検討を進め、平成22年度中に報告書をまとめる予定です。

実施報告

地域課題セミナー「みんなが笑顔になる地域活動って?」



11月7日(土)
千里文化センター「コラボ」で開催
(参加者24人)

講師

きぬがわ まさあき
絹川 正明 さん

神戸市西区
西神ニュータウン竹の台1丁目自治会会長

もりかわ よしこ
森川 賢子 さん

竹の台ふれあいのまちづくり協議会副委員長

地域の総合情報誌の発行や円卓会議の開催、4年間続いている地域の見守り活動など、西神ニュータウン竹の台地区(神戸市西区)の様々な取組みが紹介されました。講師のお二人は「地域の自治会、福祉・教育などテーマ型の団体、NPOや趣味サークルが得意分野を出し合って協力することで活動の幅が広がり、様々な課題が解決できる。」「思想や信念よりも活動の楽しさや達成感が伝われば、参加者も増え、次世代に繋げられる。」など、地域活動のコツを力説されました。

★今回の講義の概要をコミュニティ政策室で配布しているほか、下記ホームページで紹介しています。

次回

地域課題セミナー②

「住民に伝わる!情報共有のヒント」を開催します

(平成22年2月6日(土)14時～、千里公民館にて開催予定)
新千里東町の総合新聞の事例を紹介した後、地域で今から実践できることについて参加者のみなさんと意見交換します。



発行

豊中市 政策企画部 コミュニティ政策室

〒561-8501 豊中市中桜塚3-1-1 (豊中市役所 第二庁舎3階)

TEL 06-6858-2727 FAX 06-6858-2667

メール community@city.toyonaka.osaka.jp

市ホームページ <http://www.city.toyonaka.osaka.jp/top/bousai/npa/index.html>